

2020 年度卒業式式辞

2021 年 3 月 25、26 日

田中愛治

卒業生の皆さん、ご家族・ご親族の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業される皆さんはもちろん、これまで卒業生を支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べたいと思います。

今年の卒業生は、特別な思いを持って、卒業されることと思います。この1年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大というパンデミックに、世界中・日本中が振り回されました。早稲田大学も例外ではなく、4年生、修士2年生、博士課程の修了生は、キャンパスに通うこともままならず、最後の1年を辛い思いで過ごされたことと思います。春学期の授業はすべてオンラインになり、後期も対面授業は限られた範囲にとどまりました。申し訳なかったと思っています。感染拡大を確実に防ぐためには、仕方がなかったとはいえ、私たちが苦しんだ末の辛い選択でした。

皆さんのなかには、最も充実すべき最後の1年が失われた、という感覚をお持ちの方もいらっしゃるでしょう。しかし、コロナ・パンデミックの経験をネガティブなものとしてだけ捉えずに、この辛かった経験が、将来役に立つときがある、と信じて進んでいただきたいと思っています。それは、世界中・日本中の多くの方々は、学生時代には、コロナ・パンデミックを経験していないからです。皆さんは、若い学生時代に辛いことを経験しているのですから、他の世代より一層強く逞しくなっていると思います。

今、私は「逞しくなる」という言葉を使いました。実は、私が2年半前、2018年11月に総長に就任してから提唱している理念が、「たくましい知性」を鍛えること、ならびに「しなやかな感性」を育むことなのです。

「たくましい知性」とは、どういう知性でしょうか。今日、人類が直面している問題の多くには、正解がありません。たとえば、コロナ・パンデミックへの対策には、これが正解、と証明されているものはありません。同様に、地球の温暖化への対策も正解のない問題です。あるいは地球上の至る所に存在する貧困と格差もそうです。数えれば、きりが無いほど正解のない問題は、たくさん存在します。皆さんが社会に出て直面する問題の多くは、コロナ・パンデミックほど大きな問題ではなくとも、どの問題の正解も教科書や専門書には記されてはいないのです。そのような未知の問題に果敢に挑戦して、自分の頭で自分なりの解決策を考え出す力、これを私は「たくましい知性」と呼んでいます。

早稲田大学で皆さんは、「たくましい知性」を育み「自分の頭で考える」ことを身につけたと思います。同時に、「自分の頭で考える」ためには、やはり学問が重要なのです。学問とは、文字が発明されて以来、5千年にわたる人類の経験のエッセンスが体系的にまとめら

れたものです。もちろん、過去に人類が経験したことの無い未知の問題の解決方法は、学問には記されていません。しかし、学問をひもとけば、過去に人類がどのように、未知の問題に挑戦したのかを、学ぶことができます。したがって、皆さんが未知の問題に挑戦する際には、早稲田で学んだ学問が座標軸となり、今後の人生の道標となっていくはずです。

もう一つ大切なことは、「しなやかな感性」を育むことです。早稲田大学の創立者である大隈重信は、建学の精神として、「学問の独立」「学問の活用」と共に、「模範国民の造就」の大切さを説いています。すなわち、「一身、一家、一国家のためのみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」と、利他の精神の大切さを強調しているのです。この心の広い寛容の精神により、異なる国籍・エスニシティ・言語・宗教・文化・信条・性別・性的指向性を持つ人々に対して、敬意をもって接することができます。そうした利他の精神を身につけることで、「しなやかな感性」は涵養されていきます。特にコロナ・パンデミックにおいては、国や民族の違い、あるいは経済的な格差により、多くの人々がより苦しむことになったと思います。そのことを肌で感じる経験をした皆さんは、この時代を生きたからこそ、より一層「しなやかな感性」を育むことができたと思います。

卒業する皆さんは、早稲田で「たくましい知性」を養い、「しなやかな感性」を育んだことでしょう。私たち教職員一同も、それを誇りに思っています。さらに、皆さんは、早稲田で身につけた「自分の頭で考える」力に自信を持って、社会に出て活躍してください。あるいは、さらなる上のレベルの学問を追究してってください。

もう一つ、皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、昨年4月に緊急事態宣言が発出されたことで、多くの学生がアルバイトをできなくなった時のことです。早稲田大学は、経済的に困窮している学生さんに、1人当たり10万円の緊急支援金を支給しました。それと同時に、早稲田大学は、校友（早稲田では、卒業生のことを「校友」と呼んでいます）、その校友を中心として多くの方々に学生への緊急支援のご寄付をお願いしました。この募金活動が、早稲田の歴史上、最も迅速で大規模なものとなったのです。いただいた寄付金は、最初の10日間で1億円を超え、昨年12月までに8億円を超えました。多くの校友が、「自分も学生時代に奨学金をもらって苦学した。後輩たちが困っているのなら、なんとか助きたい」というメッセージとともに、ご寄付をくださいました。特筆すべきは、卒業して間もない20歳代の若い校友たちからも、700名近くの方が寄付をしてくれたことです。私は、早稲田の校友の一人であることを改めて誇らしく思いました。皆さんも、このことを忘れずに、卒業した後、早稲田の後輩を応援してあげてください。

最後に、これから早稲田を巣立って行く皆さんに、私からとくにお伝えしたい言葉があります。「皆さんはこれからの人生で、やり甲斐がある、興味深いと思うことを是非ともやってください」。現時点で流行しているとか、数年後にはこれが流行（はや）るだろうとかの理由で決めるのではなく、ご自分で「やり甲斐がある」と思うことに打ち込んでください。いくら流行に乗っていても、ご自分に興味のないことや、やりたくないことでしたら、皆さんの力は、90%か80%しか発揮されません。流行に乗っていなくても、やり甲斐を感じ

る、関心の高いことなら120%くらいの力を発揮できます。どの分野であろうと、120%の力で仕事する者は、80%で仕事する者に優ります。

この言葉は、毎年卒業式の日、私のゼミを卒業する学生に言ってきたものです。今、同じ言葉をすべての早稲田の卒業生に贈りたいと思います。

皆さんは、是非とも早稲田で学んだことに自信を持ち、ご自身がやり甲斐のあると思うことに精力を傾けて、人生を切り開いていってください。

卒業後も、時々は母校に帰ってきてください。その時には、今よりも輝いている早稲田で、今よりも輝いている皆さんとお会いしましょう。

To those graduating students who are still learning Japanese, I want to congratulate you briefly in English.

You should be proud of what you have learned at Waseda, as well as trust in your intelligence and ability. With your education, intelligence and ability, may you contribute to human kind as you make your way through the world.

Congratulations on your graduation!

卒業生諸君、今日は、ご卒業、本当におめでとう！